

SINRA13-2巨鯨伝説「知床」 地の果てにクジラを追う



▶クジラ特集



SINRA

CONTENTS

各見出しリンク

▶ **SINRA-1 2014.9**
「小豆島」 オリーブカントリー

▶ **SINRA-2 2014.11**
「秋田」 マタギの里へ

▶ **SINRA-3 2015.1**
「富岡」 富岡製糸場の歩き方

▶ **SINRA-4 2015.3**
「北海道」 北海道ワイン紀行

▶ **SINRA-5 2015.5**
「小笠原」 黒潮の孤島鶴来島漂流

▶ **SINRA-6 2015.7**
「大台ヶ原」 熊野古道をいく

▶ **SINRA-7 2015.9**
「信州木曾谷」 森林鉄道が消えた日
「信州木曾谷」 森林鉄道が消えた日

▶ **SINRA-8 2015.11**
「霊峰月山」 死と再生の小宇宙

▶ **SINRA-9 2016.1**
「丹後」 古代王国と、絹をめぐる道

▶ **SINRA-10 2015.3**
「秩父」 絶滅危惧種再生へ、開ける道

▶ **SINRA-11 2016.5**
「佐賀」 大海を越えた胡蝶の夢

▶ **SINRA-12 2016.7**
「津軽」 ブラキストン幻の海

▶ **SINRA-13 2016.9**
「五島列島」 クジラたちの海

▶ **SINRA-14 2016.11**
「飯田」 天空の里、遠山郷
「飯田」 天空の里、遠山郷

▶ **SINRA-15 2017.1**
「北海道」 ジンギスカンをめぐる冒険

▶ **SINRA-16 2017.3**
「宮城県」 猫たちの聖地

▶ **SINRA-17 2017.5**
「京都」 神が授けた、いのちの水

▶ **SINRA-18 2017.7**
「熊楠」 の森をめぐる冒険

▶ **SINRA-19 2017.9**
「カナダ」 極北の大地に生命が燃える

▶ **SINRA-20 2017.11**
「宮崎」 神楽仮面の謎を探る

ご購入

 Fujisan.co.jp
雑誌がオンラインで買える

ご購入

 amazon.co.jp
プライム

世界自然遺産に指定されている知床半島は、海と山、独特の生態系がもたらす恩恵があふれる豊かな土地だ。沿岸の豊穡の海にも生物の多様性が見られる。なかでもクジラたちが訪れる海として世界的に有名で、観察できる種類、数ともに屈指のレベル。北の海の主役であるクジラに肉薄、その圧倒的な存在感を感じながら鼓動に耳を澄ませた。

文／長谷川和之(編集部) 撮影／二神慎之介
協力／北海道観光振興機構



北海道・知床羅臼

地の果て、 シリエトク クジラと シャチの宴

知床の語源となった「シリエトク」とはアイヌ語で「最果ての地」の意。ザトウクジラのブロー音だけが最果ての海に響く

夕暮れ、羅臼港近くの海岸で車のエンジン切り、凩いだ海とその先にある国後の島影をぼんやりと眺めていた。耳朶にあまり聞き慣れない音がかすかにひっかかった。

さらに北、国後島の爺爺岳の方に視線を移すと、海面に黒いシルエツトがのぞいた。ザトウクジラだ。岸から肉眼ではつきりと見える。その距離、約50メートル。聞こえたのはザトウが潮を吹くブローの音。目を閉じて、次のブローを待つ。海からの風を顔に感じながら、クジラの営みに想いを馳せた——太古から変わら

ないであろう景色、そしてこれからも変わらずにあってほしい景色だ。

種類、頭数ともに世界有数の聖地

2005（平成17）年、世界自然遺産に指定された北海道の知床半島は、いままなお豊かな生態系が残され、野生動物たちの観察ができる日本でも有数のエリアだ。

知床に暮らす野生動物は、ヒゲマヤエゾシカ、キタキツネにオオワシ、シマフクロウなど絶滅危惧種も含め多岐におよぶ。そして、海洋生物で注目されているのが数種のクジラとシャチ。世界中のホエールウォッチャーも憧れる「聖地」として羅臼ではマッコウクジラ、ツチクジラ、ミンククジラ、シャチ、イシイルカの観察が可能。シャチの個体識別数は約300近くを数え、カナダなどに並ぶ世界有数のウォッチングエリアとなっている。

他にもナガスクジラやカマイルカ、イシイルカが時折観測され、冒頭のザトウクジラも数年に一度沖合に入ってくるという。2年ぶりだというから、思いがけぬ遭遇だった。世界中からウォッチャーが集まる羅臼にはホエールウォッチングツアーを行うクルーズ船が何隻かある。そのうちのひとつ「知床ネイ



ザトウクジラが羅臼沖に入ったのは2年ぶりのこと。あまりの近さにクルーズ船のスタッフも興奮する迫力だった



右／羅臼の海岸に打ち上げられたクジラの死骸を食べるヒグマ
 上／もっと多くの人に羅臼の良さを伝えたいと「知床ネイチャークルーズ」の長谷川正人さん



ザトウクジラの捕食シーン。上あご（右）を蛇腹のように広げて海水を取り込み、オキアミを下あご（左）のヒゲで濾すようにして食べる

**羅臼では陸地からも
 肉眼でクジラを観察できる。
 世界からホエールウォッチャーが
 集まる「聖地」だ**



羅臼岳・羅臼湖

羅臼岳：知床連山の最高峰で標高1,661m、日本百名山のひとつ。登山ルートは傾斜がきつく上級者向け。
羅臼湖：原生林に囲まれた周囲約6kmの神秘的な湖。周辺には大小5つの沼があり高山植物などを見ることができる。

クジラたちの楽園 知床GUIDE

野生動物の楽園・知床半島。
世界からも注目される
大自然を五感で感じる
旅に出よう



クジラの見える丘公園

高台にあり羅臼港と根室海峡を一望できる景勝豊かな公園。国後島も遠望でき、沖合いに来るクジラも観察できる貴重なスポット。
目梨郡羅臼町海岸町
0153-87-3360（観光協会）
主に夏季 無し



知床国立公園 羅臼ビジターセンター

知床の自然と訪れる人を結ぶために環境省が設置、知床国立公園を知り自然を楽しむための情報を提供する。シャチの骨格標本が圧巻だ。
目梨郡羅臼町湯ノ沢町
0153-87-2828 9:00～17:00（11～4月10:00～16:00）月曜、年末年始



羅臼町郷土資料館

羅臼の歴史・文化・自然を伝える文化財を多数展示。動物展示室ではクジラはもちろん、哺乳類・鳥類の剥製や写真、精巧な模型が展示されている。
目梨郡羅臼町峯浜町307-1
0153-88-3850 9:00～17:00
土日祝年末年始（7～9月中旬は無休）



相泊温泉

羅臼港から知床岬に向かう道路の終点付近にある日本最東端の温泉。眼前のオホーツク海と一体になっているかのような野趣あふれるロケーションが通好み。営業期間中は小屋掛けされる。
目梨郡羅臼町相泊
5月中旬～9月中旬 期間中はなし



丸魚 濱田商店「時鮭定食」

季節はずれの夏に獲れるため、「時知らず」とも呼ばれる時鮭は、味わい最高。刺身、いくばくにテッポウ汁も付き1800円。他に日替わり海鮮丼（2800円）も。
目梨郡羅臼町礼文町365-1
0153-87-3311 8:00～17:00
5月～10月／不定休 11月～4月／主に日曜休日



魚寶「海鮮バーベキュー」

テント張りの中で海鮮を炭焼きで豪快に味わえる人気店。殻付きホタテやホッケ、牛タンなど好きなものをBBQ形式で自分で焼いて楽しむ。時鮭生口丼（700円）も名物だ。
目梨郡羅臼町本町 道の駅裏
080-5583-0430 10:00～20:00（知床横断道路開通期間）不定休



食事処もこ「チキンスープカレー」

羅臼産の鮭節を使った和風のスープが絶品のチキンスープカレー（900円）は野菜もゴロゴロと具だくさん。同じ鮭節と焦がしラードが特徴の鮭節塩ラーメン（700円）も人気。
北海道目梨郡羅臼町富士見町4
0153-87-3285
11:30～14:00／17:00～26:00 火曜



メーメーベーカリー「自家製パン」

道産ライ麦粉からおこした自家製酵母と道産小麦を使ったパン目当てに遠方から来る常連客も多い。焼きたての他にランチやスイーツを小さなカフェスペースで食べられる。
斜里郡斜里町峰浜233
0152-28-2626 11:00～17:00（売り切れ次第終了）不定休



Approved by

天夢人



先にあらわれたザトウクジラと呼ばれるように、翌日にはもう1頭が沖に入った。今年はナガスクジラもたびたび観察され、ホエールウォッチングの当たり年だという



知床ネイチャークルーズ

北海道目梨郡羅臼町本町27-1
0153-87-4001（受付時間7:00～20:00）
中標津空港から車で約75分／66km
運航期間／料金
夏季：「クジラ・イルカ・バードウォッチング」5月～10月頃／約2時間半・大人8,000円、3歳～小学生4,000円
冬季：「流氷&バードウォッチング」11月～4月頃／約1時間～・大人4,000円～、3歳～小学生2,000円～
※要予約、催行人数5名～

い」と長谷川船長もいうように、何年も通ってやっと観察できた人もいる。天候の影響も受けやすい。海が少しでも時化ればクルーズ船は出ない。自然観察とはそういうものだ。羅臼に暮らす人々は、日に何度も海を眺める。「今日は海がやさしい顔をしている」「午後から機嫌が悪くなりそう」——宿泊した民宿の女将さんも朝ご飯を用意しながら挨拶代わりに海の話をする。夕食をとつ

た食事処のスタッフも羅臼の海の素晴らしさを語る。みな、海とともに生き、海からの恵みや喜びを分かち合って暮らしている。「久しぶりにザトウが入ってきたねー」、住人たちも海のニュースに興味津津だ。2日目、クルーズ船からザトウがオキアミを捕食する貴重なシーンを目撃した。日本の近海では捕食活動は行わないというのが定説だが、羅臼でのクジラたちの行動が

次々と常識を覆しているという。羅臼では7月から10月にかけてマッコウクジラが見られる。滞在最終日、会う人みなに「またおいで」と声をかけられた。クジラに魅せられた私は再訪を約した。クジラだけでなく、豊穣の海と生きる温かい人々に会うために。